

大阪日々新聞

二百五十二号



紀及周叁見村

少年笑

濱田某の娘

本年十九才心潔き

性質よく風の

柳のうらやふ

あつてさうなぬ

さう言國小有

てもつくまらぬ

尻の早くも大阪の

今木新田某(奉公)

するより又直に村久三良方へ

仲人の夫婦中一重の身を肌むしと重る

妻の裁重とも数え入り定めぬ

さういふとさういふ賣女同士の

しまふ其と数算をて久三良方へもみまて

追出さんと思ふもさういふさういふとさういふと

追出の若りの六七人もさういふとさういふと

小舟をひきさつて呼出さその入五六丁

もさういふとさういふとさういふと

さういふとさういふとさういふと

さういふとさういふとさういふと

さういふとさういふとさういふと

酒さういふとさういふとさういふと

福福



もちがきも  
過ぎ食ひん  
さういふとさういふと  
つのお千島新田渡の中へ  
追りかかれて夜をりりし  
わが身をさむハ先こさば

柳櫻記

川傳 福福

